

# 国 語

## 1 学習指導及び学習評価の改善・充実

### (1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

現行の学習指導要領が実施され3年が経過したところであるが、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（令和6年12月25日中央教育審議会諮問）において、主に次のような課題が指摘されている。

#### ①主体的に学びに向かうことができていない

##### 子供の存在

学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が多くなっている。

#### ②学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

自分の考えをもち、根拠に基づいて明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと等に依然として課題がある。

これらの課題を踏まえ、国語科においては、生徒の主体的な学びを実現するために、次のような指導上の工夫が考えられる。

	●生徒が興味・関心をもつ学習課題の工夫	●生徒が次の学習に生かすために学びを振り返る場面を設定する工夫
単元名	「情報を届けよう（やさしい日本語）」 （「現代の国語」書くこと）	「おすすめの本を分かりやすく紹介しよう」 （「現代の国語」話すこと・聞くこと）
工夫の内容	目的や相手に応じて表現を書き換える学習課題に取り組む。	単元の学習で得た気付きについて、言語活動の最後に振り返る場面を位置付ける。
実践方法	・自校が災害時の避難所になった際に伝えるべき情報をワークシートに提示する。 ・「高齢者」「日本語を母語としない方」など、様々な相手を想定しながら、伝わりやすい表現に書き換える。	・「分かりやすさ」という観点から、計画書、発表資料を作成し、発表を相互評価する。 ・「相手の理解を得られるような表現の工夫」について、振り返りシートに記入し、気付きをグループや全体で共有する。
工夫のポイント	<u>自校が災害時の避難所になるという身近で具体的な場面を想定することで、生徒は、情報を伝わりやすく表現する言語活動に意義を感じ、興味・関心をもちやすくなる。</u>	<u>本の紹介という言語活動を通して、生徒は、「分かりやすさ」について共通の観点をもって取り組み、自らの学習を振り返ることで、次の学習に生かすことができるようになる。</u>
参考	『新3観点对応 高等学校国語の授業づくり 学習評価の考え方と実践例』（大滝一登 編著、2023、明治図書出版株式会社）	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校国語』（国立教育政策研究所、2021、東洋館出版社）

表 国語科における生徒の主体的な学びを実現するための工夫の例

国語科における授業づくりでは、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、単元の目標を実現するために適した言語活動を位置付け、生徒が興味・関心をもてる学習課題や学びを振り返る場面設定を工夫する必要がある。

学習課題や振り返りに取り組んだ学習の過程や成果については、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準に照らして、学習の中での発言や行動、記述された内容などについて観察や点検、確認、分析を行うことにより、生徒の主体的な学びの実現状況の高まりを適切に評価することが求められる。

## (2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

国語科において育成を目指す資質・能力のうち、「学びに向かう力、人間性等」については、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、観点別学習状況の評価や評定にはなじまないことから、個人内評価を通じて見取る部分があることに留意する必要がある。「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、各学校で定めた国語科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。具体的には、次の図のとおり「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」と、「②「①」の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」を評価することが求められる。

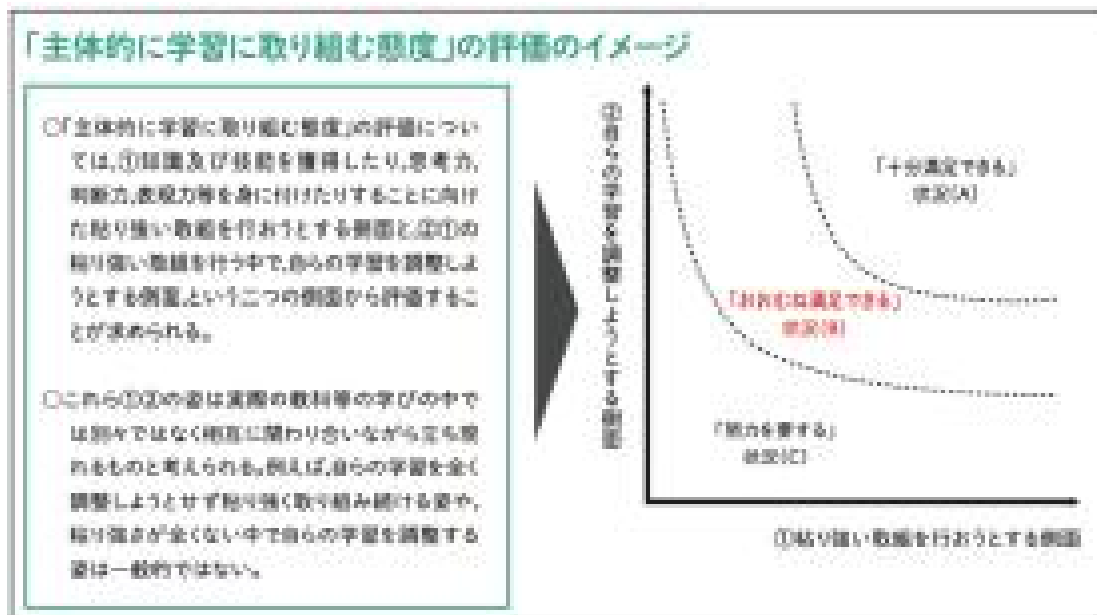


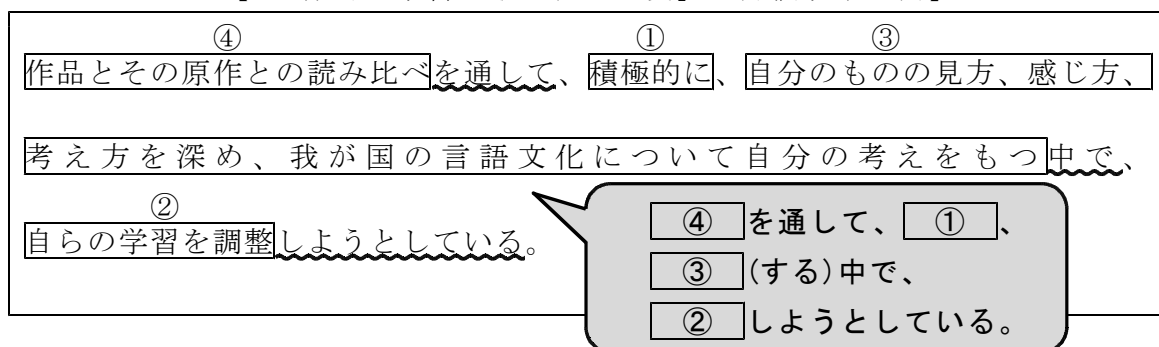
図 「主体的に学習に取り組む態度」の評価イメージ（『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校国語』（国立教育政策研究所、2021、東洋館出版社）p11）

評価規準については、次に示す①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。特に、③「粘り強さを発揮してほしい内容」と、④「自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動」を考えて評価規準を設定することが大切である。

- ① 粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ② 自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③ 他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮して欲しい内容）
- ④ 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の例】



具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。

例えば、「現代の国語」の「おすすめの本を分かりやすく紹介しよう」という単元において、評価規準を次のように設定したとする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、分かりやすさに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。(1)イ)	「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえて話し、相手の理解が得られるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	聴衆に対する発表を通して、話し言葉の特徴を理解し、相手の理解が得られるよう、表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」については、振り返りシートを用いて、「記述の分析」をし、相手の理解が得られるよう表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整し、おすすめの本を紹介しようとしている姿を「概ね満足できる状況(B)」と捉え、評価することになる。

その際、生徒が記入する振り返りシートの構成を工夫し、「プレゼンテーションを行った感想(練習・本番)」、「他者から得た気付き(相手の理解を得るために考察したこと)」、「単元の学びを振り返って(今後に向けた、自分自身の課題や様々な表現活動について)」という項目を設定することにより、生徒が単元の学習を振り返って今後の表現活動への視点をもつことができるよう、自らの学習を調整しようとしている姿を適切に見取ることができる。

## 2 指導と評価の計画例

### 古典探究「比較や考察を通して、和歌の解釈を深めよう(A 読むこと)」の計画例

#### キーワード

#### (1) 単元の目標

ア 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めることができる。 [知識及び技能] (1)エ

イ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。

[思考力、判断力、表現力等] A 読むこと(1)キ

ウ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

(2) 本単元における言語活動と教材

ア 言語活動 先人の和歌と、同じ掛詞を用いて自身が創作した和歌を比較し、掛詞がもたらす効果について考察することを通して、和歌の解釈を深める。

関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 A 読むこと(2)ウ

イ 教材 「大江山」(十訓抄) (『古典探究 古文編』数研出版)、掛詞を用いたその他の和歌、ワークシート等

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(1)エ)	「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(A(1)キ)	自身が創作した和歌と先人の作品との比較及び考察を通して、先人の感性に触れながら、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。

(4) 指導と評価の計画 (全7時間)

次	学習活動	指導上の留意点等	評価規準・評価方法等
第一次 (2単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の目標や学習の進め方を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>○「大江山」の和歌についての初読の感想と評価をワークシートに記入する。(p8ワークシート(1)参照)</li> <li>○「大江山」の本文を読むことを通じて、和歌における掛詞とその効果について理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配付し、単元を通して身に付ける資質・能力について理解させる。そのために、本単元では掛詞に注目して教材の解釈を深めることを伝える。</li> <li>・正確性は問わないので、現段階での解釈でよいことことを伝える。</li> <li>・教材における和歌を味わい、「表現の豊かさを生み出す」、「多様な解釈を含ませる」、「言葉遊びとしてのユーモアを感じさせる」、「作者の教養を感じさせる」、「音の響きやリズムをよくする」などの、掛詞の効果を理解させる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>活動を通して和歌の解釈が深まることを実感させたいので、この段階では「和歌の内容がよく分からない」という生徒がいてもよい。なお、生徒の実態に応じて、掛詞以外の修辞法について補足してもよい。</p> </div> <p>【指導に生かす評価】            観点：知識・技能            方法：「記述の確認」ワークシート</p>
第二次 (2単位時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和歌における掛詞の効果について、ペアで意見交換する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;活動例&gt;            「うき(浮き・憂き)」の語における二つの意味が両立する「主題」と「情景」をペアで出し合う。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;学習課題例&gt;            次の語句の中から「お気に入り」のものを一つ選び、それを掛詞として用いた和歌を創作しなさい。            (例)            「まつ」「よる」「あき」「なく」「かる」「ふる」「すむ」「たつ」「つゆ」など、実際に先人が和歌の中で掛詞として用いているものを提示する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○候補の中から任意の掛詞を選び、それを用いて和歌を創作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数組を指名し、それぞれが考えた「主題」と「情景」をクラス全体で共有する。</li> <li>・次に示す学習課題(和歌の創作)に役立たせるために、十分にイメージを膨らませるよう働きかける。</li> <li>・創作した和歌が意図した「主題」と「情景」を表しているか生成AIを活用して確認するよう指示する。(p5参照)</li> </ul>	<p>【指導に生かす評価】            観点：思考・判断・表現            方法：「行動の観察」ペアワーク</p> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【学習課題の工夫】            生徒自らが和歌を創作するという活動を取り入れることで、主体的に学習課題に取り組み、掛詞の効果について実感をもって確認することができるように工夫する。</p> </div> <p>【記録に残す評価】            観点：知識・技能            方法：「記述の分析」ワークシート</p>

<生成AIの活用例>

- ◆プロンプト（指示文）「（自作の和歌を入力し）この和歌について解説してください」  
※自作の和歌（例）「堪へがたき別れし時のつきることなくもの思いを君はいかにぞ」
- ◆回答例

訳(現代語訳)

耐えられないほど辛く、涙を流しながら別れたその時、私の心には戻ることのない思いがあった。  
——その時、あなたはどのように感じていたのだろうか。

語句の解説

- 堪へがたき  
「耐えられない、我慢できない」という意味。感情や苦しみの強さを表す。
- 別れし時  
「別れたあの時に」という意味。過去に経験した別れの瞬間を指す。
- なくもの思ひ  
文字通り「戻ることのない思い」の意と同時に、「戻なくしては戻られない思い」を含意。
- 君はいかにぞ  
「あなたはどう思っていたのか」という問いかけ。  
自分の思いはあまりに深い、それに比して相手の気持ちとは分からない、という余情を残している。

主題・情景

- 主題 「別れの時の心の不一致への問いかけ」。自分は涙が止まらないほど深く相手を思っている。しかし、その時相手はどうだったのか——。相手の心を慮りながらも、確かめられないもどかしさが漂う。
- 情景 恋人同士が避けがたい事情により涙ながらに別れる場面。一方は戻さぬ思いを抱え、涙をこらえきれないけれど、相手の胸の内は見えない。別れの悲しさに加え、「同じ気持ちであってほしい」という切なる願いが表れている。

第三次（3単位時間）

○自身が創作した和歌と、同じ語句を掛詞として用いている先人の和歌を比較・分析するとともに、掛詞が和歌にどのような影響を与えているかについて考察したことをスライドにまとめる。

・先人の和歌については、図書室やインターネット等を活用して探すよう指示する。  
・掛詞の効果に関する比較の観点として、「表現の豊かさ」や「多様な解釈」、「ユーモア」、「教養」、「音の響きやリズム」のうち、該当するものについて、共通点・相違点を分析するよう指示する。また、考察については、掛詞の効果による「主題」と「情景」への深まりや広がりといった観点から行うよう指示する。

(p6「オ 学習指導案」参照)

【記録に残す評価】  
観点：思考・判断・表現  
方法：「記述の分析」スライド (p7参照)

○まとめたスライドを基にグループ内で発表する。

・グループ内の優れた発表については全体で共有する。

**！重要！**  
単元の最後には、必ず本文（教材）に戻り、自身の読みが深化していることを確認させる。

○改めて教材（大江山）を読み返し、和歌についての学習活動後の感想と評価をワークシートに記入する。(p8ワークシート(2)参照)


・本単元では、創作や他の和歌との比較、グループ発表等、様々な活動を行ったが、そこで単元の学習が留まることがないように、改めて単元の目標を確認するよう指示する。

○単元の学習活動を振り返り、初読時と学習活動後の変容について、理由とともにワークシートに記入する。(p8ワークシート(3)参照)

・単元の学習活動を通して、和歌の解釈に関する変容（読みの深化）について意識して整理するよう指示する。

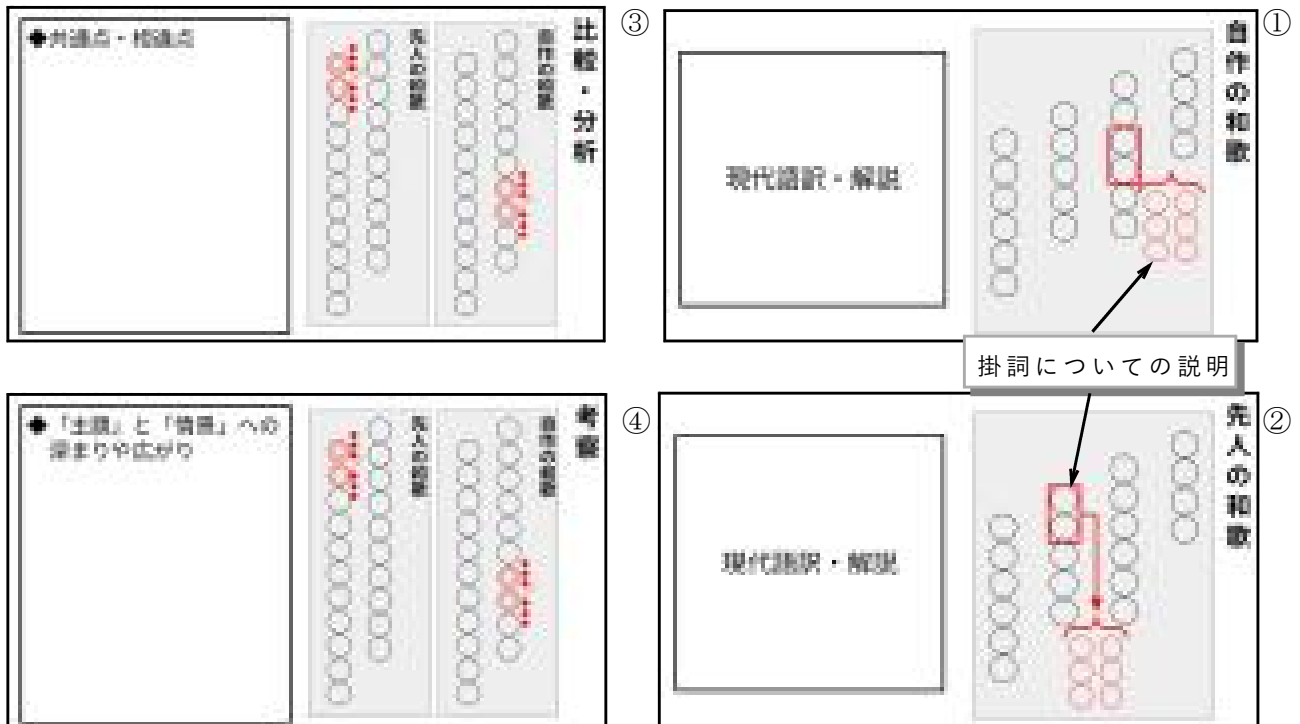
【記録に残す評価】  
観点：主体的に学習に取り組む態度  
方法：「記述の分析」ワークシート

(5) 学習指導案（5時間目／7時間中）

科目名	古典探究	単元名	比較や考察を通して、和歌の解釈を深めよう（A読むこと）	
本時の目標	関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。			
本時で取り上げる主な言語活動	先人の和歌と、同じ掛詞を用いて自身が創作した和歌を比較・分析するとともに、考察したことについてスライドにまとめる。			
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大江山」（十訓抄）（『古典探究 古文編』数研出版）</li> <li>・教材とは異なる掛詞を用いているその他の和歌</li> <li>・ワークシート、スライド</li> </ul>	実施対象	第2学年	
本時における評価の観点、評価規準、評価方法	本時の評価の観点	本時の評価規準		本時の評価方法
	思考・判断・表現	「読むこと」において、自身が創作した和歌と先人の和歌との比較・分析及び考察を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。		「記述の分析」ワークシート、スライド 自身が創作した和歌と先人の和歌について、掛詞の効果に着目しながら比較・分析し、考察したことをスライドにまとめたり、発表したりする活動を通して、和歌の解釈に関する自身の考えを深めているか分析する。
学習活動（言語活動）	形態	指導上の留意点等		評価の実際
<b>導入（10分）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を確認</li> <li>・前時の振り返り</li> <li>・創作した和歌の音読と推敲</li> </ul>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読と推敲の際には次のことに留意するよう伝える。 「和歌の音数やリズム」、「反復法との違い」、「掛詞の表記」、「文法上の誤り」等</li> </ul>		
<b>展開（35分）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創作した和歌と同じ語句を掛詞として用いている先人の和歌を調べ、現代語訳や解説等をスライドにまとめる。</li> <li>・創作した和歌と先人の和歌を比較・分析したことをスライドにまとめる。</li> <li>・比較・分析を踏まえて考察したことをスライドにまとめる。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先人の和歌については、図書室やインターネット等で探すよう指示する。</li> <li>・解説等については、掛詞に着目して、まとめるよう指示する。</li> <li>・スライドの構成については、<b>枠のみを例として配信する。</b></li> <li>・掛詞の効果に関する比較の観点として、次のア～オを提示し、該当するものについて共通点・相違点を分析して記述するよう指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ア 表現の豊かさ イ 多様な解釈 ウ ユーモア エ 教養 オ 音の響きやリズム</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛詞の効果が、創作した和歌や先人の和歌における「主題」と「情景」にどのような深まりや広がりを与えているかについて考察するよう指示する。</li> <li>・「①自作の和歌の紹介」においては、生成AIによって出力した画像を用いるなどして、和歌のイメージを効果的に伝える工夫をするよう促す。</li> </ul>		<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>&lt;スライドの構成例&gt;</b>（p7 参照）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自作の和歌の紹介 掛詞の説明、全体の解説</li> <li>②先人の和歌の紹介 掛詞の説明、全体の解説</li> <li>③比較・分析 自作の和歌と先人の和歌との比較・分析</li> <li>④考察 比較・分析を踏まえて考察したこと</li> </ol> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>画像生成に当たっては、自作の和歌で伝えたい内容と異なるイメージが出力されることがある。このような場合は、プロンプト（指示文）の追加によって調整するよう伝える。なお、画像はあくまでも和歌のイメージを効果的に伝えるために使用するものであることに留意すること。</p> <p><b>&lt;生成AIの活用例&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆プロンプト（指示文） 「（自作の和歌）の情景を画像にしてください。」</li> <li>◆回答例</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ発表を踏まえて、スライドを完成させて提出することを伝える。</li> </ul>	
<b>まとめ（5分）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを記入する。</li> </ul>	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習について簡潔に振り返るよう指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートは単元の学習活動全体を振り返る際の資料として使用するため、自身のものの見方、感じ方、考え方の変容があれば、メモしておくよう伝える。</li> </ul>

※Googleスライドを活用した発表資料の例



(6) 学習の進め方や学習評価の工夫

ア 「読むこと」の資質・能力を育成するための学習の進め方の工夫

本事例では、掛詞を用いた和歌を自身で創作する活動を経た上で、単元の最初に取り上げた和歌を再び解釈するという学習の進め方を取り入れ、古典作品に込められた先人の思想や感情を理解し、自らが具体的に対象をどのように受け止めたり感じたり考えたりしているかという、自分のものの見方、感じ方、考え方を見つめ直すことができるよう工夫している。

イ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫（p2、3、8参照）

本事例で振り返りシートとして用いるワークシートは、初読の感想、学習活動後の感想及び初読時と学習活動後の比較といった3項目で構成することにより、生徒が単元の学習を振り返る際に、古典作品に込められた先人の思想や感情に対する自身のものの見方、感じ方、考え方が、どのように変容したかを俯瞰して見るができるようしており、次の古典作品の読みに向けて、自らの学習を調整しようとしている姿を適切に見取ることができるようにしている。

古典研究ワークシート

題 名 比較や考察を通して、和歌の鑑賞を深めよう

評価基準		
知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
和歌の用語や文法が書かれている、内容の要約が正確、問題などの表現の特色について理解を深めている。	「同じこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文庫などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	自身が創作した和歌と他人の作品との比較及び考察を通して、先人の感性に触れながら、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。

和歌について

(1) 初読の感想

和歌への評価  よし(すばらしい)  よろし(まあよい)  悪し(よくない)  悪し(悪い)

(2) 学習後和歌後の感想

和歌への評価  よし(すばらしい)  よろし(まあよい)  悪し(よくない)  悪し(悪い)

(3) 初読時と学習後和歌後の感想を比較して、変化をどのように考えるか

とても変化した

とても変化した

少し変化した

あまり変化しなかった

まったく変化しなかった

「主体的な学習の態度」における「記述の分析」の観点

先人の感性に触れながら、自分のものの見方・感じ方・考え方を見つめ直し、どのように変容したかについて記述しているものを、積極的に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める中で、自らの学習を調整しようとしている姿として、「概ね満足できる」状況（B）と捉え評価する。

特に内容が具体的であったり、自分のものの見方・感じ方・考え方を深く見つめ直していたりするものを「十分満足できる」状況（A）と判断する。

具体性に乏しいものや、自分のものの見方・感じ方・考え方の変容についての記述がないものを「努力を要する」状況（C）とし、改善の手立てとして、ワークシートを基に、それぞれの場面でどのように学習に取り組んだか、それにより自身の考えなどがどのように変容したかを個別に確認し、ワークシートに追記するよう助言する。